

150周年記念キャラクター「たちばにゃん」



橘小学校ホームページのQRコードです。

# 「輝け！橘っ子」通信

学校教育目標「ともに生きる力としなやかに伸びる力をもち、たくましく夢を追求する児童の育成」  
めざす学校「笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる楽しい学校」

阿南市立橘小学校  
学校だより No.35  
令和7年2月7日  
校長 上原 小代子



今季最強の寒波到来との予想で始まった今週は、とにかく寒い1週間でした。5日(水)の夕方には雪がかなり降り、6日(木)の朝は、学校の運動場にも薄く雪が積もっていました。登校した子どもたちが早速運動場に出て雪遊びをしているのを見て、「子どもは寒さに強いなあ」と感心することしきり。脂肪や脂質を燃やして体温を維持す褐色脂肪細胞は寒さという刺激によって活性化するそうです。寒い中でも外で元気に遊ぶ子どもたちは、運動と寒さのダブルの刺激で褐色脂肪細胞が活発に働き、ますます寒さに強い体の持ち主となっていきます。外遊びは健康にいいことがいっぱいです。春の訪れはもう少し先になりそうですが、子どもたちには、屋内にとじこもってばかりではなく、しっかり外で遊んでほしいと思います。

## 龍谷大学防災出前授業

2月5日(水)、5・6校時、4年生を対象に、龍谷大学石原ゼミの学生さんたちによる防災教育出前授業を実施しました。テーマは「災害時要援護者の避難について考えよう」です。授業では、まず、能登半島地震の被害や避難所の様子等の紹介があり、合わせて避難情報や警戒レベル、災害時要援護者等の意味について丁寧に説明がありました。次に、「高齢の祖母と二人きりで家にいるときに、大きな地震が起きたらどうするか？父や母の帰りを待つか、自分と祖母だけで避難するか」と究極の選択を迫られる「クロスロード」というゲームに挑戦しました。正解がない問いかけに子どもたちは「高齢者は逃げるのに時間がかかるから、早く避難する」「お父さんやお母さんもきっと避難していると信じて、自分たちも避難する」等「自分ならこうする」と真剣に考え発表していました。授業後半は、災害時の要援護者の避難について考えました。目の不自由な方が避難所に避難する際、どんなものを持っていけばよいか、どのようなルートで防災公園に避難するか、学生さんたちと一緒にグループで話し合いました。

4年生の子どもたちにとっては少し難しい内容であったかもしれませんが、災害発生時には自分や大切な人の命を守るため、自分で考え、判断し、行動しなければなりません。この授業でしっかり考えたことを今後に生かしてほしいと願っています。



能登半島地震の被害について知る。



クロスロードゲーム、自分ならどうする？



どのルートで避難するか話し合う。



視覚障害者の避難時に必要なものは？



グループの考えを発表。



みんなの意見を交流する。

## 新1年生体験入学

2月5日(水)、来年度入学する園児の皆さんが、こどもセンターや幼稚園から体験入学にやってきました。ホスト役の1年生はこの日のために、冬休み明けから準備をしてきました。園児の皆さんもこの日を楽しみにしてくれていたようです。

まず、1年生教室で互いに自己紹介しあった後、クイズや買い物ごっこ、こま回しなどをして楽しみました。次に体育館で、新聞紙を丸めたボールを使っての「ポイポイゲーム」をしました。最初は緊張気味だった園児の皆さんも、時間がたつにつれて笑顔が見られるようになり、「ポイポイゲーム」では、歓声を上げて新聞紙のボールを投げていました。お別れの際には、1年生から園児の皆さんにアサガオの種をプレゼントしました。玄関で園児の皆さんを見送った後の1年生は充実感に満ちあふれた表情をしていました。4月の入学式が今から楽しみです。



歌とダンスでお出迎え。



買い物ごっこを楽しむ。



「どちらかたっくん入るかな」クイズ



「ポイポイゲーム」に大はしゃぎ。

## 「ぼうさい甲子園」奨励賞受賞

令和6年度1、17ぼうさい未来賞「ぼうさい甲子園」において、橘小学校は小学生部門の奨励賞をいただきました。昨年度の「はばタン賞」に続いての受賞です。地域の自主防災会と連携した継続的な取り組みや、児童から地域への発信、ユレタキャラバンなどの新しい取り組みなどが評価されたのではないかと考えます。

これを励みに、今後も子どもたちが自分で考え判断し、行動できる「生き抜く力」を育てるため、防災教育を推進してまいります。保護者の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

